

山形大学への期待

尾形 洋敬（山形県立山形東高等学校2年）

教職の魅力創造プロジェクトに参加させていただき、ありがとうございました。

大学の教授の方々や他校の先生方との会議に参加するというのはとても貴重な経験でした。初めての会議だったのでとても緊張しましたが、内容の濃い素晴らしい時間を過ごさせていただきました。また、山形東高校では出会えないような素晴らしい先生と出会うことができ、教員になりたいという意思がより強くなりました。

1. 教員志望者数を増やすために

今回会議で話し合われた計画は主に高校生が対象であり、中学生を対象とする計画はありませんでした。そこで私は「中学校、高校で教職の魅力や教員志望者数が減っている現状について講義を行う」ということを提案します。

県内全ての学校で講義を行うのは無理があると思うので、まずは中高生を対象として、進路や、教職に対するイメージ、興味などについてのアンケートをとり、まだ進路先が決まっていない生徒や、教職に対して興味のある生徒が多くいる中学校、高校に講義を行えば、教員志望者数を増やすことができると思います。

高校へ入学する時には既に進路を決めている生徒が多くいると思うため、中学生を対象とする方が合理的だと考えました。

また、講義を希望制ではなく全員参加型にすることにより、教職に対してあまり興味をもっていない生徒に興味をもってもらえるよい機会になると考えました。（講義が有効であったかを調べるため、講義前と講義後でこのアンケートを実施するのが良いと思います）

2. 山形大学地域教育文化学部の魅力発信

山形大学の魅力を知ることが、山形大学への志願者数を増やす一番良い方法だと私は思います。そのため、1で提案した講義において、山形大学地域教育学文化部のアピールとして、聞き書きプロジェクトや山形大学の教授の紹介を行えば良いと思います。

また、山形大学を目指す中学生には、山形大学へ進学しやすい高校を紹介してあげると良いと思います。

私は教員を目指しており、将来は山形で働きたいと考えていますが、山形大学は第1志望ではありません。山形大学地域教育文化学部では全ての学科がまとまっており、各学科に対して専門的に、探究出来ないと考えているからです。

今すぐには無理だと思いますが、昔のように学科を増やすことが出来れば、各学科を専攻したいと考えている生徒が志願し、教育学部全体の志願者数が増えると思います。